

経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

和歌山県

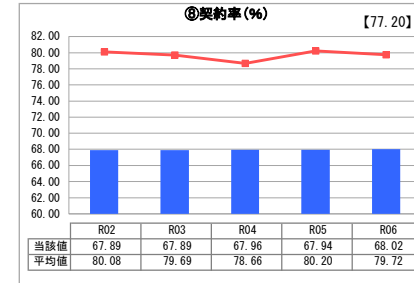
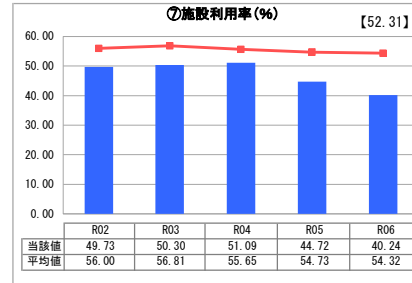
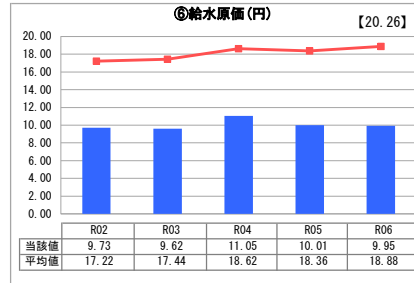
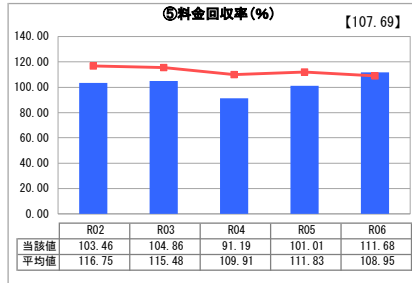
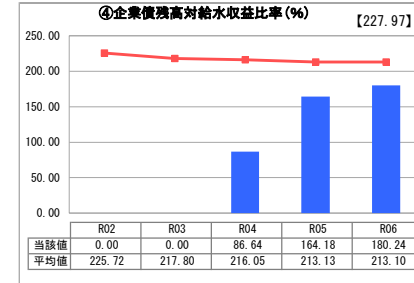
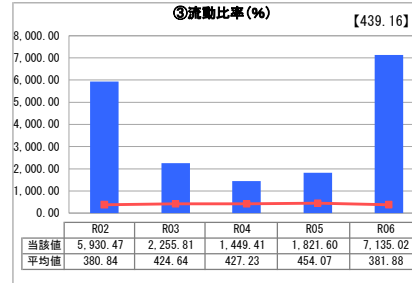
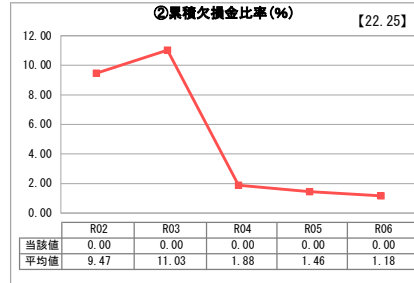
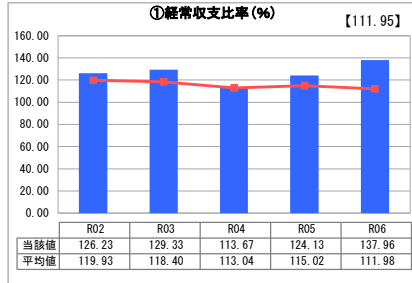
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	227,860	大規模	3	91,696
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	87.5	34	155,000	非設置	

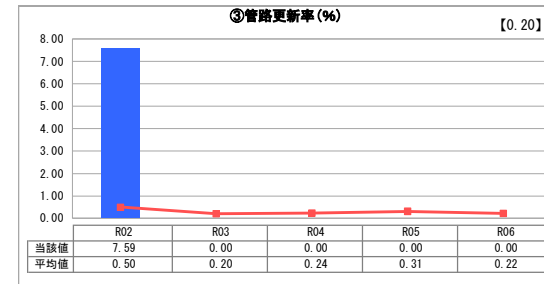
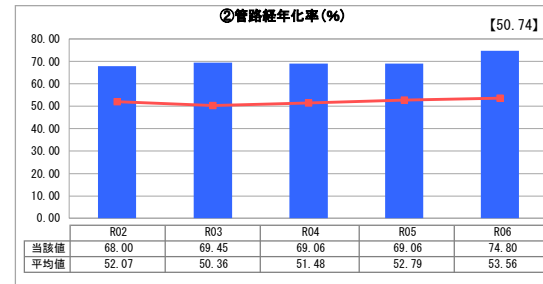
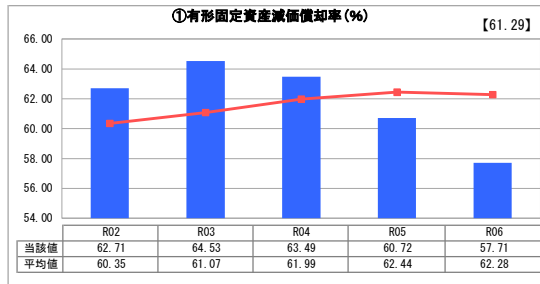
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率が100%を超えていること、②累積欠損金がないこと、③流動比率が全国平均より高いことなどから経営の健全性が保たれている。
- ④企業債残高対給水収益比率は、複数年にわたる取水施設の更新工事に多額の費用を要し、新規企業債を発行したことから令和4年度から生じたものであるが、類似団体の平均値よりも低く、さらに、償還金については給水収益により賄える見通しであるため、資金収支は良好な状態が確保されている。
- ⑤料金回収率については、令和6年度より料金改定を実施したため、類似団体の平均値を上回り、改善されている。
- ⑥給水原価が類似団体の平均値よりも低くなっているのは、浄水施設を持たず、河川内に埋設した集水管にて伏流水を送水しているためである。
- ⑦施設利用率が令和5年度と比較して約4.5%低下している。これは、大口受水者の事業転換の影響によるものである。
- ⑧契約率については、類似団体の平均値を下回っていることから、新規ユーザを開拓し、施設運用の効率化と契約率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、令和5年度に引き続き、令和6年度も類似団体の平均値を下回る結果となった。これは、大規模な更新工事を行ったことで償却対象資産が増加したことによる。
- ②管路経年率は、類似団体の平均値よりも高く、③管路更新率は令和6年度ゼロとなっており、法定耐用年数超過の管路を多く使用している状況となっている。これは、老朽化の程度や健全性などを総合的に考慮した結果、法定耐用年数よりも更新周期が長くなっていることによる。
- 今後も引き続き施設の重要度、経過年数及び健全性に財源の確保などを勘案し、計画的に施設の更新、強靱化及び長寿命化を図る必要がある。

全体総括

現在、経営は安定しているが、今後も健全な経営を続けるため、施設の更新、強靱化及び長寿命化の大規模投資を計画的に実施するとともに、これらに見合う料金収入の確保及び経費節減を図り、より一層経営の健全化・効率化に努めていく必要がある。また、施設利用率を高めるよう新規ユーザの獲得に向けた取り組みを行っていく。